

### 3- (5) ズワイガニ資源調査

藤原 大吾

#### 目的

本県の主幹漁業である沖合底びき網漁業の漁獲対象種で、最も生産額の高いズワイガニは、TAC（漁獲可能量：Total Allowable Catch）対象種に指定されており、資源水準の把握が必須となっている。1990年代後半から漁獲量が増加し2004年にピークとなった(図1)。しかしながら、近年になって資源水準は頭打ちで低位横ばいにあることから、資源評価と管理方法の検討が不可欠となっている。そこで、本種の資源水準を把握するため、以下の調査を行った。

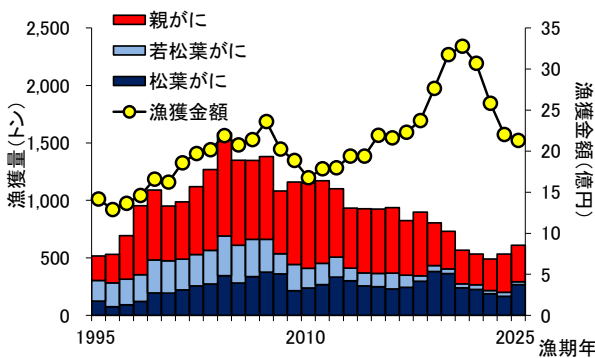


図1 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量の推移

#### ① 漁期前調査結果

2025年9月29日～10月29日にかけて、山陰沖の水深177m～442mの海域における合計23定点で着底トロール網による漁期前調査を行った(図2)。調査海域内において漁獲対象サイズのズワイガニの資源量(単位=万尾)を表1に示した。

**松葉がに(脱皮後1年以上の雄のズワイガニ)：**前年と比較して、出雲沖、鳥取沖で増加、隠岐北西でも資源量が多い状況が継続し、資源が回復傾向にあることが確認され、推

定資源量は前年比198%、平年比165%となった(表1、図3左)。

サイズは甲幅10.5～12cmの小～中型個体(35万個体)が甲幅12cm以上の大型個体(21万個体)を上回り、前年に引き続き、小型個体の方が多い状況となった(図4、5)。

**若松葉がに(脱皮6カ月以内の雄のズワイガニ)：**各海域とも増加し、前年比169%、平年比202%となった(表1、図3中央)。サイズは甲幅10.5～12cmの小～中型個体主体で、甲幅10.5～12cmの個体は前年より増(前年比175%)、甲幅12cm以上の大型の個体も前年より増加(前年比147%)した(図4、5)。

**親がに(雌のズワイガニ)：**鳥取沖で減少したものの、隠岐北西、出雲沖で資源量が多い状況が続いており、推定資源量は前年比112%、平年比162%となった(表1、図3右)。サイズは甲幅8cm以上の大型個体の割合が8%、甲幅7～8cmの小型の個体は92%で小型個体の割合が前年よりさらに高い状況となった(図4)。

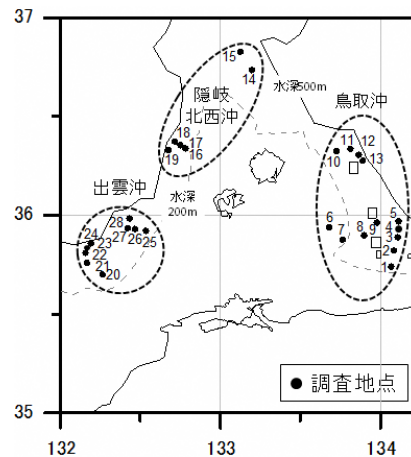


図2 試験操業位置(図中黒丸が調査地点)

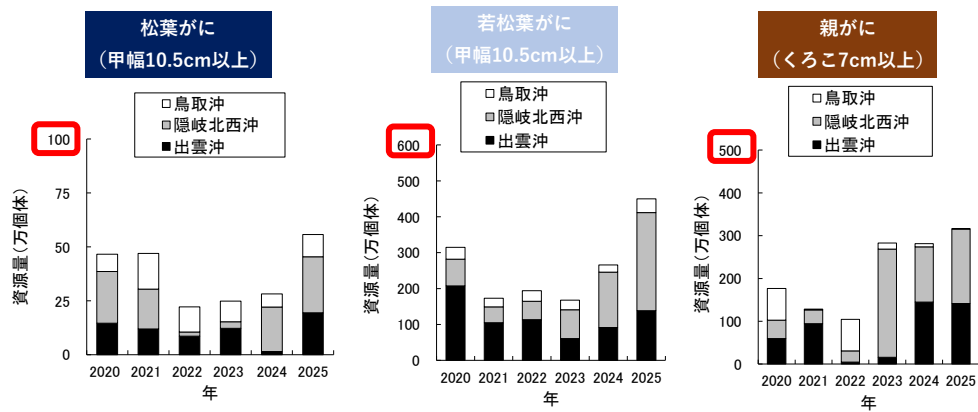


図3 年別海域別の漁獲対象となるズワイガニの資源量

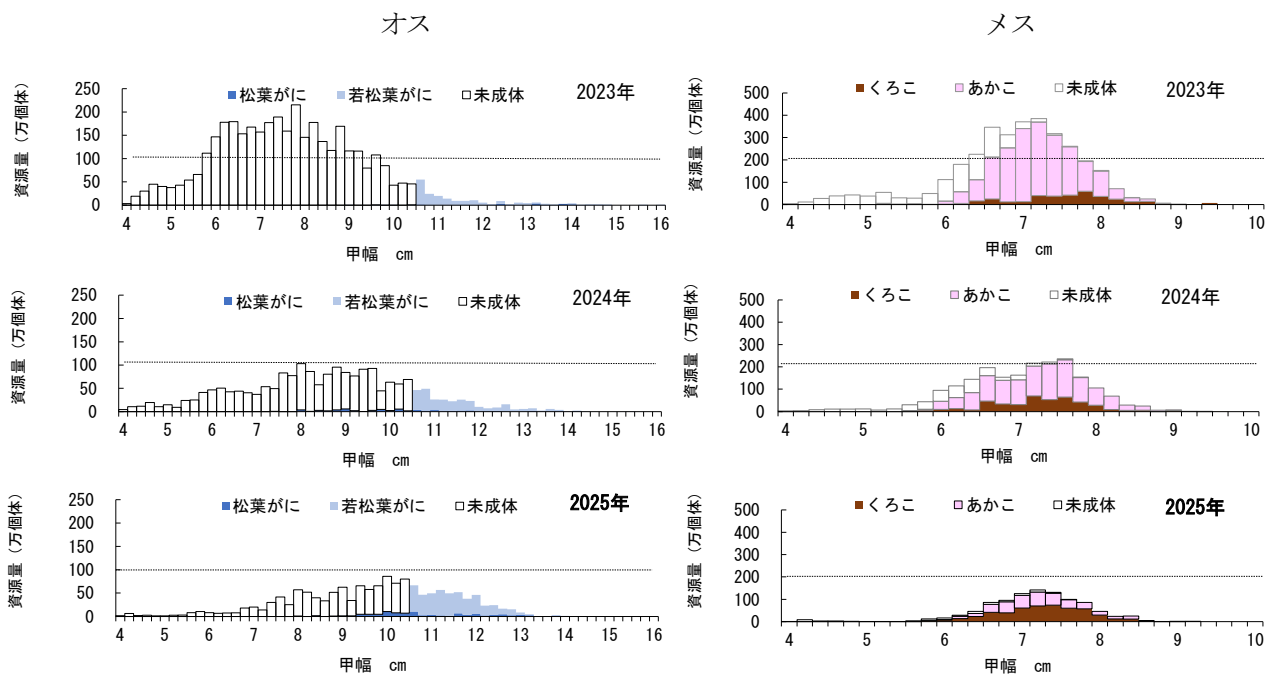


図4 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2023~2025年)

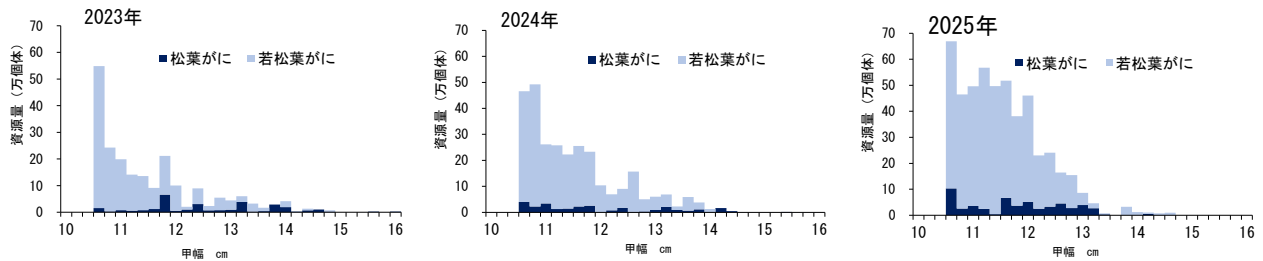


図5 調査海域全域における漁獲対象サイズ (甲幅 10.5cm 以上) の雄ズワイガニの甲幅組成の比較 (2023~2025年)

表1 調査海域におけるズワイガニの推定資源尾数（単位＝万個体）

区分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	前年比	平年 2020-24平均	平年比
松葉がに（甲幅10.5cm以上）	46.5	47.0	22.2	24.9	28.2	55.7	198%	33.8	165%
若松葉がに（甲幅10.5cm以上）	314.7	172.9	194.2	167.8	266.0	450.1	169%	223.1	202%
親がに（くろこ）	176.7	128.6	104.4	282.9	281.3	316.2	112%	194.8	162%

※くろこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

## ② 漁獲動向調査

### 2025年漁期の漁獲状況

漁獲量は前年と比較して「松葉がに」は前年を上回り、「親がに」は前年並、「若松葉がに」は漁期短縮、水揚げ枚数制限の強化により前年を下回り、全体の漁獲量は前年を上回った（表2）。

近年、漁獲量が低調な状況が継続していたが、松葉がにの資源状況が好転したことで漁獲量が増加したと考えられる。

#### 【松葉がに】

漁獲サイズとなる甲幅 10.5 cm以上の資源が回復傾向にあり、漁獲量は前年比 161%となった。また、甲幅 12cm 以上の大型個体の割合は 33%となり、前漁期よりもその割合が 10%減少した（図6）。

実際に、2025年の漁期の五輝星（大型の雄のズワイガニのトップブランド）の水揚げ枚数は県全体で 132 枚が認定され、前年より 26 枚減少した。

#### 【親がに】

漁獲対象となるクロコの資源状況が前年同様に高水準な状況が続き、2025年漁期の漁獲量は前年比 95%で前年並となった。2025年漁期も資源管理の観点から1航海当たりの水揚げ枚数の制限を継続しており、引き続き資源状況に対して、漁獲が抑えられている状況にあると思われる。

#### 【若松葉がに】

2025年漁期の漁獲量は前年比 74%となり、前年を下回った。今漁期は漁期の短縮（2月中を2月1-20日の期間に短縮）、1航海当たりの水揚げ枚数規制を

前年よりさらに強化（700枚→500枚）しており、若松葉がににも資源状況に対して、漁獲が抑えられている状況にあると思われる。大型個体の比率は28%で、前年よりやや増加した。

#### 【2025年漁期の漁獲動向について】

漁期前調査結果から調査海域全体の松葉がにの資源量は回復傾向にあることが予想され、実際の漁獲量も前年を上回る漁獲量となった。

漁獲サイズについては前年同様に大型個体の比率が減少し、小型主体の水揚げとなり、調査結果と類似した漁獲動向となった。

親がに、若松葉がには漁獲枚数制限等の自主規制を前年から継続、強化しており、親がにの漁獲量は前年並、若松葉がにの漁獲量は前年を下回る漁獲量となった。

#### 【今後の資源動向について】

漁期前調査では12歳の若松葉がにの資源状況が増加していることから、2026年漁期は成長した松葉がにの漁獲がさらに上向くことが期待できる。

一方、本県の調査及び、国の水産研究・教育機構の資源調査では漁獲対象サイズ以下の小型のカニの加入が見えておらず、2027年頃からズワイガニの資源量が再び減少していくことが予想されている。

このため、一時的に資源は回復に向かうと考えられるが後に予想される資源低迷に備え、現状の自主的な規制を継続し、今ある資源を大切に利用していくことが賢明と思われる。

表2 銘柄別漁獲量についての前漁期との比較（単位：トン）

種類	2024年漁期	2025年漁期（前年比：%）	状況（試験操業による資源量の見通し）
松葉がに	166	267 (161%)	前年を上回る（前年、平年を上回る）
親がに	334	318 (95%)	前年並（前年並で平年を上回る）
若松葉がに	34	25 (74%)	前年を下回る（前年を上回るが規制強化により漁獲量減少）
計	534	610 (114%)	前年を上回る

前年並み：対前年資源量・漁獲量比±10%以内、前年を上回るor下回る：±11%以上

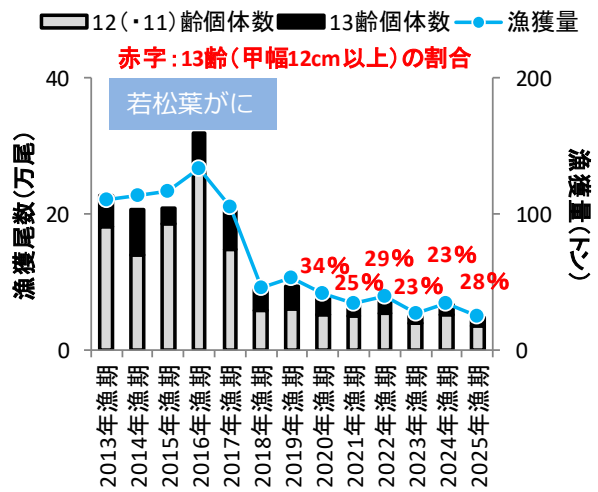
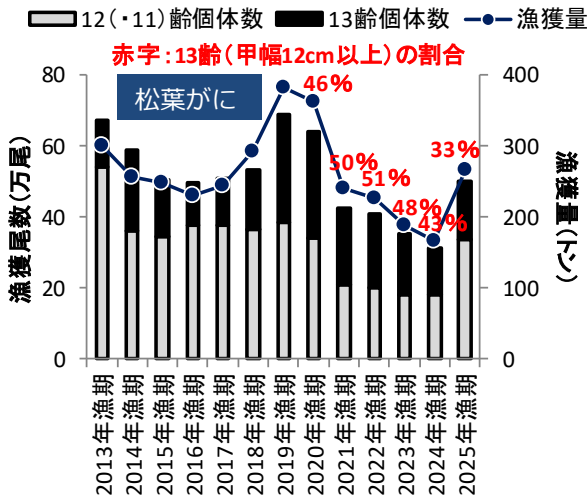


図6 切断法による脱皮齢別の雄ズワイガニの漁獲尾数の推移

### ③ ズワイガニ稚ガニ分布調査

2025年9月8日～9日、9月16日～17日に試験船「第一鳥取丸(199t)」により、水深142-205mの14地点(図7)で大型桁網(枠開口部:幅4.1m,高さ0.8m,袋網目合18節)を用いてズワイガニ稚ガニの分布状況を把握した。曳網時のワープ長は水深の約2倍,船速度は対地2ノット,曳網時間は10分間とした。得られた試料は,冷凍保管し,後日に種同定し,甲幅・全長・体重等の計測を行った。桁網の採集効率は1と仮定した。

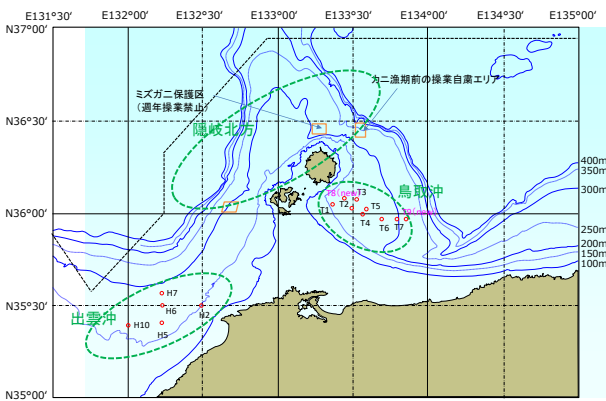


図7 調査地点(丸印)

#### 桁網によるズワイガニの採集状況:

鳥取沖では2019年,出雲沖は2020年,隠岐北方は2021年からそれぞれ調査を開始し,図8に雄,図9に雌の推定現存個体数をまとめた。

2025年の調査では隠岐北方の調査については海況悪く欠測とした。鳥取沖では推定現存個体数は過去年と比較して多い状況ではなかったが,出雲沖で

7-8 齢(甲幅20-40mm程度)の推定現存個体数が多い結果となり,稚ガニの加入が見られた。

### ④ ズワイガニかに籠調査

2025年7月7日から9日にかけて,赤碕沖の第2保護育成礁,第2保護育成礁対照区,しみだし効果把握の1~3km,3~5km,5~7kmの計5箇所第一鳥取丸により籠調査を行った。

調査結果は,「令和7年度日本海西部地区整備効果調査業務」報告書に掲載されている。

### ⑤ ズワイガニ標本船野帳調査

2024年9月から2025年5月にかけて,沖合底びき網漁船の協力のもと,賀露3隻,網代5隻,田後5隻の計13隻を対象として,ミズガニとアカコの混獲投棄尾数の実態把握を行い,混獲死亡尾数の推定を行った。これまでの推定結果をとりまとめ,令和8年2月25日に開催された「あかがれい・ずわいがに広域資源管理検討協議会(水産庁境港漁業調整事務所主催)」にて報告した。本調査結果については,兵庫県で行われた標本船野帳調査結果も合わせて,今後,解析が進められ,随時,漁業者の自主規制の取組の参考データとして活用される見込み。

出雲沖

隠岐北方

鳥取沖

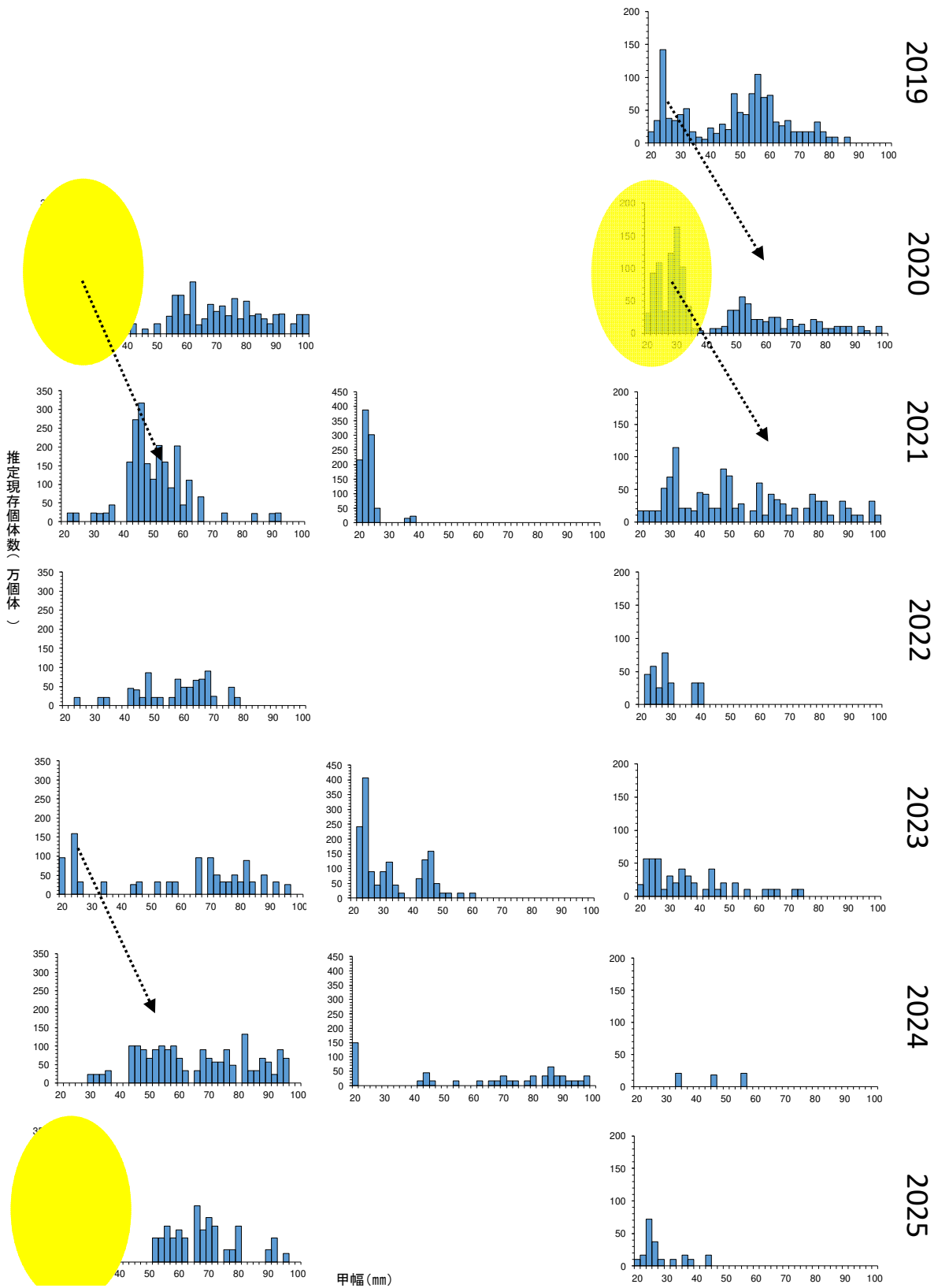


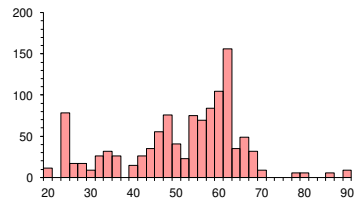
図8 稚ガニ調査でのズワイガニ雄の海域別の推定現存個体数

出雲沖

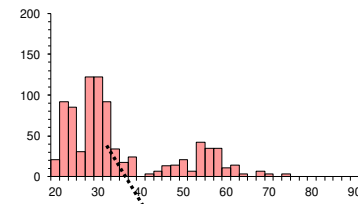
隠岐北方

鳥取沖

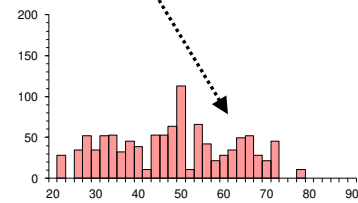
2019



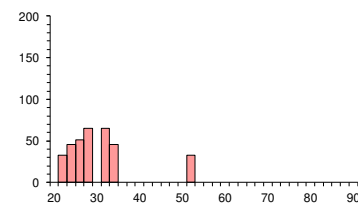
2020



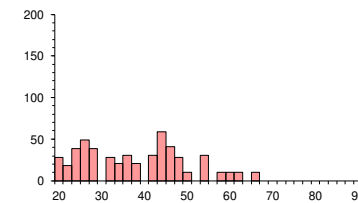
2021



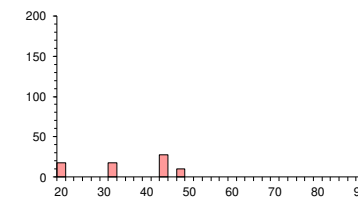
2022



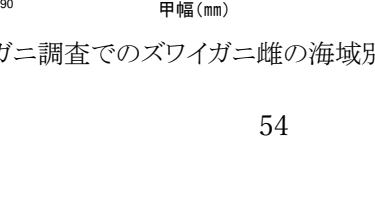
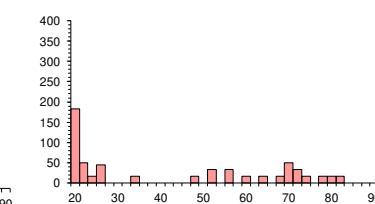
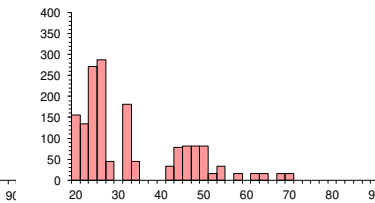
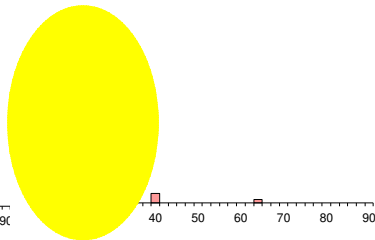
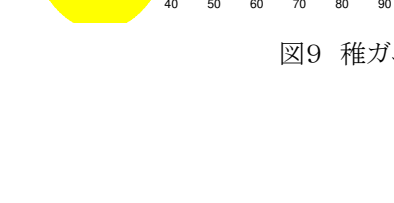
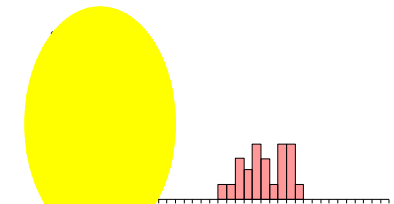
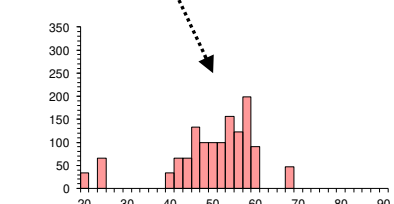
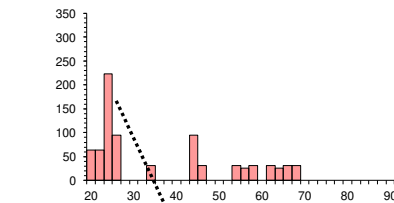
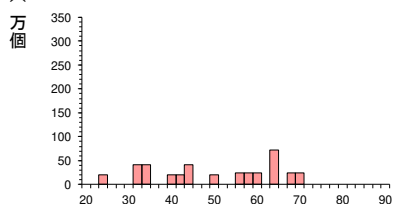
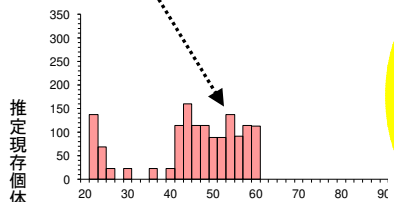
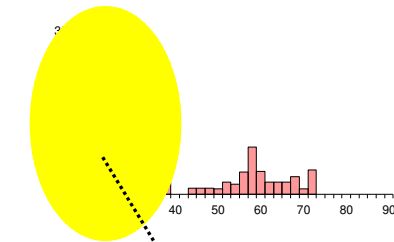
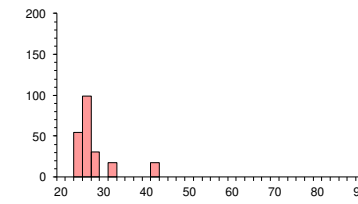
2023



2024



2025



推定現存個体数  
(万個)

甲幅(mm)

図9 稚ガニ調査でのズワイガニ雌の海域別の推定現存個体数